

令和元年11月13日
(2019年)

保護者の皆さまへ

吹田市立山田東中学校
校長 朝倉 高和

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年度、3年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

I. 教科に関する調査結果

1. 国語

ア. 調査結果の概要

全国の正答率と比較して、全体的に平均を上回る結果であった。しかし、話すこと・聞くこと、書くことにおいて無解答率がやや高い傾向にある。背景として、自分の考えや意見を表現する場が少ない生徒がいることが考えられる。また、封筒の書き方について、誤りではないがより正しく書く方法が定着していない生徒もいることが分かった。この背景には、インターネットやSNS等の普及により、手紙や葉書を書く習慣が減ったことが考えられる。

イ. 課題及び指導改善のポイント

読むこと

- ① 設問2三 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く設問。全国値をやや上回っていたが、「自分の考えを書くこと」に課題がある。

書くこと

- ② 設問3二 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える設問。全国値をやや上回っていたが、指定された書き方の条件を満たさずに書いている生徒もいる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ③ 設問1四 投稿を封筒で郵送するために、投稿先の住所を書く問題。投稿先の名前と住所の正しい内容を、正しい位置に楷書で書けているが、投稿先の名前を住所より大きく書けていない生徒もいた。

【指導改善のポイント】

- ①自分の考えを表現する場をペア学習やグループ学習等で意識的に取り入れていく。
②作文指導の際に、書き方の条件を設けた作文の練習を取り入れる。
③書写等の時間で丁寧に指導する。

2. 数学

ア. 調査結果の概要

すべての問題で、全国平均を上回り、関数の分野でとくに正答率が高い。また、説明をする問題の正答率も高く、無解答率も低く、積極的な学習姿勢が感じられる。

イ. 課題及び指導改善ポイント

数と式

- ① 設問9(1) 説明を読み、式を変形する理由を考え、穴埋めする問題。正答率は全国値を上回っていたが、無解答率は全国とあまり差がない。

図形

- ② 設問7(1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題。正答率は全国値を上回っていたが、答えることのできない無解答率が全国と変わらない。

関数

- ③ 設問6(2) 式やグラフを用いて2つのものを比べてどちらがいいのか求める方法を説明する問題。正答率は全国値を上回っていたが、無解答率が高かった。

資料の活用

- ④ 設問5 2枚の硬貨を同時に投げて2枚とも表の出る確率を求める問題。正答率は全国値を上回っていたが、より「資料を分析する力」をつけていきたい。

【指導改善のポイント】

- ① 理解の低い生徒たちが、より発言、発表し、積極的に答えようとする姿勢をもたせる発問を考えた授業をする。
- ② 基本的な知識を定着させることを目標として授業をする。
- ③ 関数の式やグラフを用いて、生活への利用を考える発問に対して、すべての生徒が意見を述べ、無解答にならない態度を養う。
- ④ 日常における事象を数的な解析をすることに興味をもち、分析できる力を養う授業をする。

3. 英語

ア. 調査結果の概要

どの項目も全国値よりも高い結果となった。知識を問う問題では大幅に全国値を上回っていたが、音声に対してアドバイスを書いたり、自分の意見を話したり、書いたりする問題については苦手だという傾向がみられた。

イ. 課題及び指導改善のポイント

話すこと

※「話すこと調査」については、参考値ではあるが、全国値を上回っている。

- ① 設問1(1) カレンダーを見て少女の誕生日を答える問題である。正答となる解答は①正しい月日を文で解答している。もしくは②正しい月日を句で解答している場合である。①に関しては正答率が全国値を下回っていたが、②に関しては全国値を上回っていた。この結果より本校の生徒は正しい句で答えることはできるが、文で答えることが苦手なようである。
- ② 設問1(3) バスで登校する少年の絵を見て交通手段を答える問題である。一番多かった間違いは、「正しい交通手段で解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの」で正答率は全国値を上回っていたが、三単現のSが抜けている解答が多いとみられる。

聞くこと

- ③ 設問4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く問題である。メッセージの内容が分からず、それに対するアドバイスになっていない文を書いた生徒が全国値を上回っていた。そして無解答率が全国よりも高かった。約半数の生徒が何も書けない状態であった。

読むこと

- ④ 設問7 チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話文を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題である。選択肢4つのうち、3つは本文の内容に沿ったものであるが、どれが一番伝えたいものか生徒は混乱したようである。
- ⑤ 設問8 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く問題である。問題点が飢餓に苦しむ人がたくさんおり、自分にできることは何かということを理解していない生徒が多く、資料に関わりがない文章を書いている生徒が多くいた。

書くこと

- ⑥ 設問10 学校を表す標識の案を比較してどちらがよいか理由とともに意見を書く問題である。①どちらの案がよいか書いている。②選んだ理由が書いている。③25字以上の英語で書いている。以上3点が条件であるが、この3点を満たしているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項に誤りがある解答をしている生徒が全国値を上回っていた。書く意欲はあるものの、正しい文法事項を用いてまとまった文章を書くことができていなかった。

【指導改善のポイント】

- ① 授業では、文で考え、答える練習を取り入れていく。
- ② 主語によって動詞の形が変わるということが、自然に判断できるように授業でも第三者について述べる機会を増やしたい。
- ③ リスニング練習の際、相手が何を求めているか（今回はアドバイス）にも重点を置きながら聞く練習をしたい。
- ④ このような文章を読むときは、接続詞や副詞に注目する必要があるということを授業で伝えていく。
- ⑤ 書く力もそうだが、資料の論点が何かを読み取る力が必要である。
- ⑥ 授業では、3年間を通してまとまった文章（最初は短いものでもいい）を書く練習をしなければならない。

II. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

1. 学習環境・生活環境について

質問(5)『自分には、よいところがあると思いますか』、質問(6)『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか』、質問(8)『将来の夢や目標をもっていますか』ではいずれも全国平均値を上回っており、自尊心や自己肯定感が高くなっているといえる。

また、質問(23)『今住んでいる地域の行事に参加していますか』、質問(22)『地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか』はともに全国平均を上回っており、地域に根ざした生徒の姿が見て取れる。

今後も、生徒には地域のみならず、社会でも貢献できる人間へと成長してもらうべく特別活動や総合の時間、道徳の授業などでボランティアの重要性・有用性を浸透させていきたい。

2. 教科・学習について

質問(33)『授業で学んだことをほかの学習に生かしていますか』、質問(38)『自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか』については、全国平均値を上回っている。一方で、質問(17)『家で、自分で計画を立てて勉強していますか』については昨年同様全国平均値を下回っており、学習習慣の確立は急務といえる。また、質問(21)『読書は好きですか』についても、全国平均値を下回っており、学校の朝読書を活用しながら読書習慣をしっかりと定着させ、読書の良さに気づいてもらいたい。

教科については、質問(25)『外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか』や質問(26)『日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか』などについては、肯定的な意見が全国値を上回っている一方で、質問(50)『数学の勉強は大切だと思いますか』、質問(41)『国語の勉強は大切だと思いますか』については、全国平均値を下回っていることから、自ら、その教科の学習の大切さに気付くことができるよう指導していきたい。

III. 学力向上のための今後の取り組み

本校では、学校経営方針に「生徒が学ぶ喜びを知る授業づくり」を明記し、授業規律の徹底と授業改善に取り組んでいます。また、保護者の皆様には学校教育に関心を持っていただき、ご支援・ご協力も賜っています。そのお陰で、調査結果は学力面だけではなく自尊心や自己肯定感といった生徒の内面に関わる数値も向上傾向にあります。そこで、本校の取組内容を以下のように分析し、さらに課題が解消されるよう継続的・重点的に取組みを進めていきたいと考えております。

学習意欲の向上に向けて

1. 主体的・対話的で深い学びについて

質問(37)『課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う』や質問(32)『生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う』では、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っており、今後も各教科で生徒主体の活動の機会を増やししながら、生徒自身が深い学びを得られるよう取り組んでいく。

2. 個に応じた指導と情報機器を活用した教育の推進

基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できるよう少人数分割授業など、個に応じたきめ細かな指導を行う。また、コンピュータやプロジェクター等の情報教育機器を活用することで学習意欲を喚起し、学力向上を図っていく。

3. 生活習慣の確立に向けて

現在、子どもたちは落ち着いた態度で学習に取り組んでいますが、生徒一人ひとりの生活リズムの向上は、地域社会の協力もいただきながら、保護者の皆様と協働して取り組んでいくことと考えています。今後とも、ご理解、ご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。